

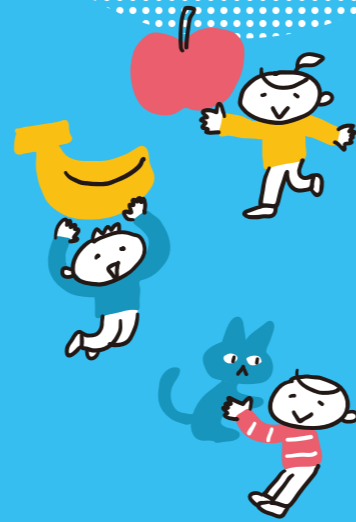
子どもたちの「わかる」「できる」をささえるユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援

保存版
No.1

すべての児童生徒が安心して学習に参加できるように

児童生徒の力を最大限に伸ばすために

児童生徒が学ぶ喜びを感じ主体的に学ぶ授業をめざして



ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援とは・・・

すべての児童生徒が「わかる」「できる」ように工夫された指導・支援です。個別の指導・支援が必要な児童生徒には「ないと困る(なくてはならない)指導・支援」です。

児童生徒が学ぶ喜びを感じ、主体的な学びにつながるように、指導・支援の工夫に取り組みましょう。

ポイント ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援と児童生徒の実態に応じた個別の指導・支援を組み合わせることで、児童生徒の個別最適な学びにつながります。



学習上・行動上のつまずき(困難さ)に応じた個別の指導・支援
(例)課題の内容や量を調節、個別に目標を設定
書字しやすいように大きさの違うマス目や罫線等の選択ができるワークシートの提示
デジタル教科書や音声教材、ICT機器の活用等

すべての児童生徒が授業に参加し、学びやすい授業となるような指導・支援やあたたかい雰囲気での学級づくり等のための**3つのポイント**

教室環境の工夫
(物的環境の工夫)

接し方の工夫
(人的環境の工夫)

授業づくりの工夫

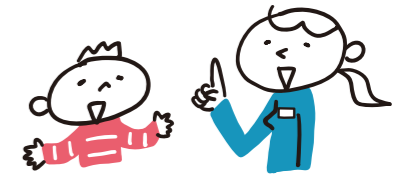
※具体例について、次のページを見てみましょう。

本リーフレットでは、ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援の例を紹介します。具体例を参考に現在の各学校・学級での取組の意図等を再確認するとともに、さらに充実した取組を進めていきましょう。

児童生徒一人一人の学びの充実のために

基盤となるのは、児童生徒理解と信頼関係

- ◆指導者の気付きから支援を考える
- ◆一人一人の違いや多様性について理解する
- ◆児童生徒のよさを生かした関係づくりを意識する
- ◆教育的ニーズを踏まえた授業づくりをめざす



児童生徒の困っていることに思いを巡らせることが充実した指導・支援のはじめの一歩となります。

「わかる」「できる」をささえる基本のチェックポイント
「特別支援教育の手引」(令和4年3月改訂 鳥取県教育委員会)

13



環境づくり、接し方、授業づくりのヒントにしてピー



	✓	チェックポイント
接し方		児童生徒等のよいところや強みをたくさん見つけましょう。 児童生徒等のやる気、指導・支援のヒントにつながります。
		担任が、一番身近なモデルになりましょう。 児童生徒等は担任の話す言葉やふるまいを真似ることが大好きです。
		「なぜ」の視点で、児童生徒等の言動の背景を探りましょう。 言動のみを評価せず、その背景(障がいの状態や発達段階、前後の事象等)に目を向けます。
指導・支援		具体的な言葉で、一つずつ指示を伝えましょう。 「筆箱をもって、並んで図書室に行きましょう」 →「今から図書室に行きます」「筆箱を持ちましょう」「廊下に出席順に並びましょう」等。
		具体物、写真、文字等で補い、分かりやすく情報を伝えましょう。 (例)校外学習の先行の写真を提示する。口頭指示を板書する。
		1時間の授業のめあてと流れを明示しましょう。 児童生徒等に分かる言葉で、簡潔に示す配慮が必要です。
		活動の終わりはどこかを具体的に伝え、見通しをもたせましょう。 (例)「〇時〇分にはこの作業を終わります」「5枚封筒を作ったら終わりです」等。
		予定を提示するなど見通しをもたせ、自主性を高めましょう。 (例)月・週・1日の予定を示す。変更は口頭ではなく、板書して伝える。
		スモールステップの課題を準備し、成功体験を積みませましょう。 「分かった」「できた」を実感させ、学びの確実な定着と意欲の向上を図ります。
教室環境		片付けの場所や道具の置き場所を分かりやすく示しましょう。 (例)ロッカーに道具の名前やイラストを貼る。
		場の構造化を図り、活動を分かりやすくする工夫をしましょう。 (例)教室をいくつかのエリアに分け、学習スペース、作業スペース、休憩スペース等を設ける。
		視覚的な刺激を整理し、集中しやすい環境を整えましょう。 (例)教室前面の掲示物を整理する。不要なものをカーテンで覆う。
	教室内外の音が集中の妨げとならないよう配慮しましょう。 (例)複数学年で同時に学習する際の他学年への指導の声、隣の教室の音等に配慮する。	

鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課

〒680-8570 鳥取市東町一丁目271 TEL:0857-26-7598

<https://www.pref.tottori.lg.jp/tokubetushien/>
(特別支援教育課ホームページ)



<https://www.pref.tottori.lg.jp/123222.htm>
(各種リーフレット、手引等URL)



教室環境の工夫

(物的環境の工夫)



『わかりやすい』『見たらわかる』という視点で工夫しましょう!

視覚的な情報を理解することが得意な児童生徒もいます。授業や活動に、安心して、参加しやすい環境づくりをすすめていきましょう。

QRコードを読み取って、ほかの工夫や資料を見てみよう! 随時追加していくピー!



●場の構造化



準備や片付けがしやすいように必要な物・場所(位置)がわかる工夫



ロッカーの整理の仕方を掲示し、自分で気付いて整理できる工夫



教科書やノートの置き方等、机上の整理の仕方を伝えることで、学習に取り組みやすくする工夫



足形があることで、止まること(安全確認)の必要性に気付く工夫

※構造化
...周囲の環境(場所・時間・空間等)をわかりやすく、視覚的に整理すること

●時間の構造化



見えにくい時間の流れや「あと〇分」を視覚的に捉え、見通しを持って取り組めるようにタイマーやアプリ等を活用

●刺激量の調節



前面の掲示は精選し、より学習に集中できるようにする工夫



音が出ないようにし、指導者や友だちの発言等に集中できるように工夫

●その他、集中できる環境づくりの工夫例

- 指導者の声...話すスピード、声の大きさ、緩急のある話し方や声のトーン
 - 座席の位置
 - 掲示物
 - 光や温度、水槽の音や廊下を歩く音
 - 文字のフォントや色の組み合わせ
- ※具体例は左上のQRコードを読み取って見てみましょう。

接し方の工夫

(人的環境の工夫)



指導者自身が一番大きな環境です。工夫できることがたくさん!

教室が心理的に安心・安全な居場所となるように、あたたかい学級づくりが大切です。指導者自身が一番大きな環境であることを意識して関わりましょう。よりよい「言語」「行動」「思考」のモデルとなりましょう。



- 「なぜ」の視点で、児童生徒の言動の背景を考えましょう。
※大切にしたい実態把握の視点について、QRコードを読み取って見てみましょう。
- 自分の「よさ」「得意な面」に気づけるような関わりをしましょう。児童生徒のやる気やよりよい指導・支援にもつながります。
- 児童生徒の思いや考えを聴き、それぞれの考え方を認め合う関係づくりを意識しましょう。
Aさんは、そう考えているんだね。
先生は...と考えるよ。...と考える人もいるんだよ。
担任は、一番のよき聴き手
- 担任が、一番身近なモデルになりましょう。
(例)声をかけられたら相手に正対して(身体を向けて、していることを止めて)話を聴く。

●「～してはダメ」と否定的な表現ではなく「～しよう」と肯定的な表現を心がけましょう。具体的な言動を伝えることですべきことがわかりやすくなります。

△書くのをやめて。
○鉛筆を置きましょう。



△走っちゃダメ。何度も言っているでしょ。
○危ないから歩こう。みんなが安全にすごせるように行動しよう。

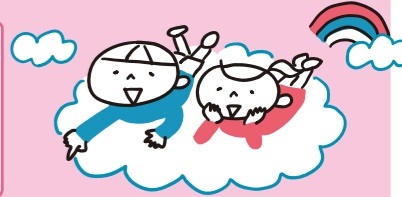
- 不適切、危険な行動については、その行動を指摘し(人格を否定しない)、行動の仕方や解決策を共に考えましょう。
- よいモデルとなる言動や行動を切り替えようとしている姿を褒めて、児童生徒の適切な言動を増やしましょう。
- 結果だけではなく、学習の過程や児童生徒の頑張りを認め、児童生徒の行動を意味付けたり、褒めたりしましょう。経験や間違いを意味付けて児童生徒と共有することで、児童生徒が自身の成長に気付いたり、次の活動への意欲を高めたりできるようにしましょう。

授業づくりの工夫



『学びやすい』授業となるような工夫もいろいろ!

教室環境や接し方を工夫するだけでなく、授業の中での「わくわく」や「できた!」「なるほど!」を増やしていきましょう。児童生徒が学習の目的や内容を理解し主体的に取り組めるような手立てを行い、「わかる」「できる」授業づくりを工夫しましょう。

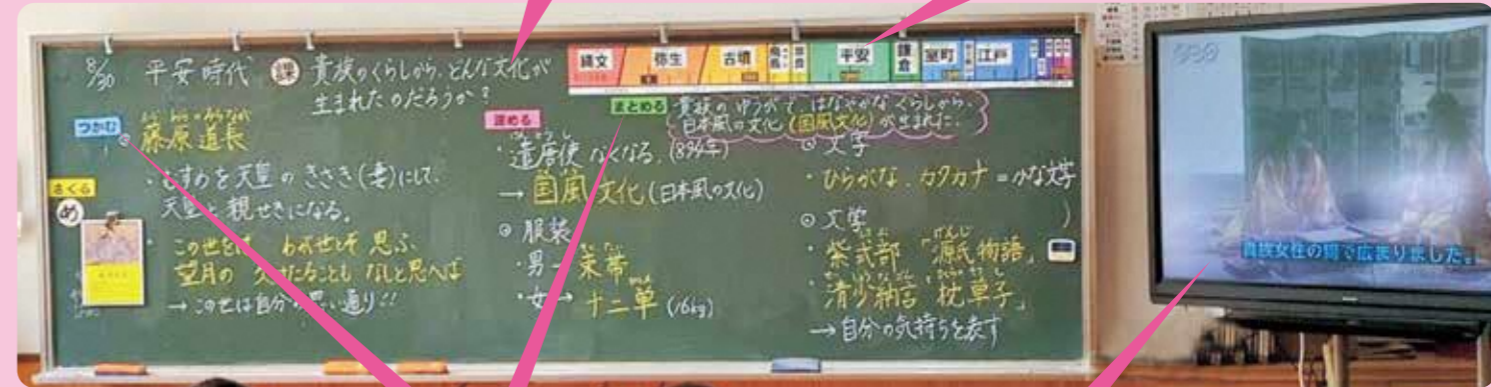


●学習するために必要な情報を児童生徒にわかりやすく提示(小学校・社会科)

児童生徒が学びを振り返ることができる板書の工夫

ねらいや授業のめあて(課題)の明確化

学んでいる時代や歴史のつながりがわかるような手がかりの工夫



思考の手がかりとなるキーワードをカード化して提示

学習内容への興味・関心を高めたり、理解や思考を深めたりするためにICT機器を活用

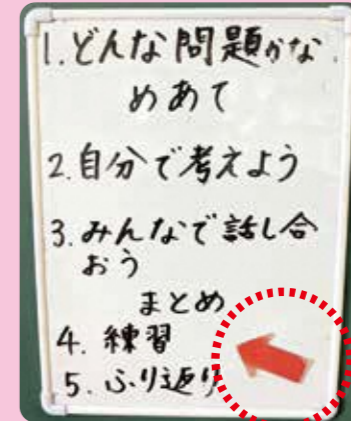
●授業の流れや、はじめと終わりを具体的に提示



文字と合わせて、図(フローチャート)で伝えることで、時間の経過を見てわかりやすくする工夫

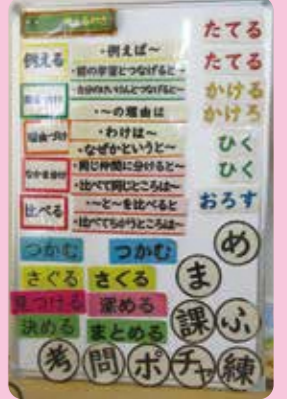


イラストで文字情報を補い、見通しをもって取り組めるようにする工夫



矢印等で示すことで、今、取り組んでいる活動に気付く工夫

●思考・言語活動のモデルを可視化



思考の手がかりや表現のモデルをカードにして見える化する工夫

●注目すべき部分にひきつける教材



注目して欲しい部分にひきつけて、意識を向けることで思考を深める工夫(小学校・国語)

●具体物や視覚的な情報の活用



視覚的な情報や半具体物を操作しつつ理解につなげる工夫

わかりやすい指示

- (工夫例)
- 「練習問題の～番をしましょう。」と指示を出しながら、教科書の該当場所を指差す。
 - 「ちゃんと」「きちんと」等ではなく具体的に明確な指示を出す。

△「ちゃんと、やることをしてください。」



◎「この後することは、2つです。
1.プリントを先生の机の上に出します。
2.ドリルを準備します。
この2つをしましょう。」

- 注目を促してから話し始める。(例)黒板をトントンと指差す、間をとる。
- 指導者の話を聞く時には、タブレット等の画面が気にならないように画面側を指導者側に向けるように促す。